

Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3)
Windows オペレーティングシステムイン
ストールガイド



Part No: E36275-01
2012年7月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are “commercial computer software” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Sun Blade X3-2B モデル名の変更	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	5
ドキュメントとフィードバック	6
このドキュメントについて	6
サポートおよびトレーニング	6
寄稿者	7
変更履歴	7
Sun Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイドについて	9
Windows OS のインストールについて	11
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報	11
OS のインストールオプション	12
Oracle System Assistant	15
OS のインストールの準備	19
インストール方法のセットアップ	19
BIOS の設定	24
Windows OS のインストール	27
Windows をインストールする(Oracle System Assistant)	27
Windows Server 2008 R2 を手動でインストールする	30
Windows Server 2008 をインストールする (PXE)	34
サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新	35
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	41
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	41
ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション	42
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	42
ファームウェアとソフトウェアの入手	44
アップデートのインストール	48

索引51

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X3-2B モデル名の変更」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「サポートおよびトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Blade X3-2B モデル名の変更

Sun Blade X3-2B の旧称は Sun Blade X3-2B です。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

新名称の意味は次のとおりです:

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 3 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を意味します。
- アルファベット B は、ブレードサーバー製品であることを意味します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール(ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます:

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みの新しいオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。

- My Oracle Support – <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、41 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X3-2B	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください:<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートおよびトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります:

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan、Cynthia Chin-Lee。

寄稿者: Yi Cai、Kenny Tung、Salomon Chavez Velazquez、Daniel Silverman、Johnny Hui、Angela Vlahos、Anand Srinivasan、Darren Tran、Mark Stanton、Denise Silverman、Ralph Woodley、Mick Tabor

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です:

- 2012年4月。初版。
- 2012年5月。SW 1.0.1に合わせて更新。改訂版ドキュメントライブラリを再リリース。
- 2012年6月。SW 1.1に合わせて更新。プロダクトノートとサービスマニュアルを改訂。
- 2012年7月。サーバーモデル名の変更。全ドキュメントを改訂。

Sun Blade X3-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイドについて

このドキュメントでは、サポートされているバージョンの Windows OS のインストール情報を提供します。

説明	セクション
Windows OS インストールオプションと推奨される手順の概要です。このセクションを使用してインストールを計画します。	11 ページの「Windows OS のインストールについて」
このセクションでは選択したインストール方法の設定に関する手順と情報を示します。	19 ページの「OS のインストールの準備」
このセクションでは、インストールおよびインストール後の手順を示します。	27 ページの「Windows OS のインストール」

Windows OS のインストールについて

このセクションでは、Windows OS のインストールの概要を示します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	説明	リンク
1	サポートされている Windows OS のバージョンの一覧を確認し、サーバーソフトウェアおよびハードウェアに関する最新情報を取得する方法を学習します。	11 ページの「サポートされている OS のバージョンおよび最新情報」
2	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	12 ページの「OS のインストールオプション」
3	必要な手順を実行してインストールの準備を整えます。	19 ページの「OS のインストールの準備」
4	OS をインストールします。	27 ページの「Windows OS のインストール」

サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションでは、サポートされている Windows OS のバージョン、および最新のサーバー関連情報の取得方法について説明します：

- [12 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」](#)
- [12 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

サポートされている Windows オペレーティングシステム

Sun Blade X3-2B がサポートしている Microsoft Windows オペレーティングシステムの最小バージョンは次のとおりです:

- Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1
 - Standard Edition (64 ビット)
 - Enterprise Edition (64 ビット)
 - Datacenter Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2008 SP2
 - Standard Edition (64 ビット)
 - Enterprise Edition (64 ビット)
 - Datacenter Edition (64 ビット)

関連情報

[12 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

プロダクトノートの最新情報

サーバーに関する最新情報は、『Sun Blade X3-2B プロダクトノート』に記載されています。『プロダクトノート』ドキュメントには、使用可能なファームウェアアップデート、およびサーバーのハードウェアとソフトウェアの問題点に関する詳細な情報が記載されています。サーバー関連のドキュメントは、オンラインのサーバードキュメントライブラリで入手できます。<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B> を参照してください。

OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	次の URL にある Enterprise Manager のページを参照してください: http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html

オプション	説明
単一のサーバー	<p>次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします:</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されません。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときに便利です。Oracle System Assistant を使用するか、手動インストールを実行します。追加のハードウェアが必要です。 リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されません。Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動インストールを実行します。 <p>注 - Oracle System Assistant を使用して、ローカルまたはリモートで、単一サーバー OS のインストールを実行します。</p>

単一サーバーへの OS のインストール方法と Oracle System Assistant の詳細については、次を参照してください:

- [13 ページの「単一サーバーへのインストール方法」](#)
- [15 ページの「Oracle System Assistant」](#)

単一サーバーへのインストール方法

Windows インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ビデオモニター USB キーボードとマウス USB CD/DVD ドライブ Windows 配布メディア <p>詳細については、14 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。</p>
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	<ul style="list-style-type: none"> Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション リダイレクト CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル Windows 配布メディア <p>詳細については、14 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。</p>

メディアの配布方法	要件
CD/DVD ドライブを使用したローカルでの手動 OS インストール - サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビデオモニター ■ USB キーボードとマウス ■ USB CD/DVD ドライブ ■ Windows 配布メディア <p>詳細については、14 ページの「手動による OS インストール」を参照してください。</p>
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用したリモートからの手動 OS インストール - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ブラウザが実行されているリモートシステム ■ CD/DVD ドライブまたは ISO イメージ ■ Windows 配布メディア ■ サーバー管理ポートに対するネットワークアクセス <p>詳細については、14 ページの「手動による OS インストール」を参照してください。</p>
ネットワーク PXE インストール - Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	<p>WDS を実行しているサーバーとそのサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。14 ページの「Windows 展開サービス OS のインストール」を参照してください。</p>

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。ユーザーがローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD イメージで Windows OS のインストールメディアを配布し、アプリケーションがインストールプロセスを開始します。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされている必要があります。Oracle System Assistant の詳細については、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

手動による OS インストール

この方法では、OS のインストールに Oracle System Assistant を使用しません。代わりに、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Windows 配布メディアを提供します。必要なツールおよびドライバも提供する必要があります。サーバーのツールとドライバは、サーバー別および OS 別のパッケージとして、My Oracle Support サイトから入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Windows 展開サービス OS のインストール

展開サーバー環境から Windows をインストールできます。上級ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) サーバー上の特定のサーバー用にカスタマイズされた Windows インストールイメージ (WIM) を作成できます。こうしたイン

ストールイメージファイルを作成しておく、ネットワークカードからサーバーをブートし、WDS システムからそのイメージを選択して展開できます。WDS の詳細は、<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa967394.aspx> を参照してください。

関連情報

15 ページの「Oracle System Assistant」

Oracle System Assistant

Oracle System Assistant は、x86 Sun Fire および Sun Blade サーバー用の単一サーバーシステム管理ツールです。これは、Oracle の Single Server Management 製品、および一連の関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです:

- Hardware Management Pack
- Oracle Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール (旧ツールおよびドライバ CD/DVD)
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、サーバー内に組み込まれており、工場ですべてのサーバー固有のツールとドライバで構成されます (これらのツールとドライバはオンラインアップデートによって保守されます)。

Oracle System Assistant の詳細については、次のトピックを参照してください:

- 15 ページの「Oracle System Assistant タスク概要」
- 16 ページの「Oracle System Assistant OS インストールタスク」
- 16 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant タスク概要

Oracle System Assistant は、次の一般的で有用な単一サーバー管理プロビジョニングタスクのセットで構成されます:

- 補助付き OS インストール
- システムの概要とシステムインベントリ情報
- すべてのコンポーネント (ツール、ドライバ、ファームウェアなど) のオンラインアップデートの取得。
- システムファームウェア (BIOS および Oracle ILOM) とホストバスアダプタファームウェアのアップデート

- RAID および Oracle ILOM (SP) の構成
- サーバーネットワーク構成
- 機能と組み込みのメディア整合性チェックの無効化
- 実行環境を使用可能にする Linux シェル端末ウィンドウ
- Oracle Hardware Management Pack へのアクセス (Linux シェルを使用)
- Oracle System Assistant の復旧

関連情報:

[16 ページの「Oracle System Assistant OS インストールタスク」](#)

Oracle System Assistant OS インストールタスク

Oracle System Assistant アプリケーションの OS のインストールタスクは、サポートされている OS の補助付きインストールを提供します。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを開始します。補助付き OS インストールは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。ただし、サーバーでサポートされている OS がインストールされると、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのコンポーネント (ファームウェア、ツール、ドライバ、その他の関連ソフトウェア) を更新できます。

関連情報:

[16 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の取得

サーバーが Oracle System Assistant をサポートしている場合、そのサーバーにすでにインストールされている可能性があります。

- Oracle System Assistant がすでにインストールされており、最新バージョンが必要な場合は、Get Updates タスクを使用して Oracle System Assistant をアップデートできます。
- Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破損または上書きされている場合は、Oracle My Support Web サイトからリカバリ ISO イメージをダウンロードしてください。
- サーバーが Oracle System Assistant をサポートしているが、Oracle System Assistant がインストールされていない場合は、Oracle の販売代理店までお問い合わせください。

関連情報:

[『Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド』](#)

OSのインストールの準備

OSをインストールする前に、インストール方法を設定する必要があります。このセクションでは、OSのインストールの準備手順について説明します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	説明	リンク
1	OSインストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	11 ページの「Windows OSのインストールについて」
2	選択したインストール方法に基づいてインストールのセットアップを行います。	<ul style="list-style-type: none">■ ローカルインストールの場合:19 ページの「ローカルインストールの設定」■ リモートの場合:20 ページの「リモートインストールのセットアップ」
3	最適なデフォルト値をロードし、BIOSモードを選択して、BIOSを準備します。	24 ページの「BIOSの設定」
4	準備のための手順が完了したら、OSをインストールします。	27 ページの「Windows OSのインストール」

インストール方法のセットアップ

- [19 ページの「ローカルインストールの設定」](#)
- [20 ページの「リモートインストールのセットアップ」](#)

▼ ローカルインストールの設定

ローカル OS インストールはサーバーで実行されます。ローカルインストール方法として推奨される手順は、Oracle System Assistant の OS のインストールタスクです。この手順を使用して、ローカルの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはローカルの手動(補助なし)インストールをセットアップします。

注 - ローカル OS インストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーの Web アクセスが推奨されます。

- 始める前に
- 『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』で説明した手順に従って、サーバーのインストールを完了させておく必要があります。
 - 次のアイテムが必要です:
 - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
 - USB キーボードとマウス
 - USB デバイス (CD/DVD ドライブまたはサムドライブ)
 - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
 - 2 サーバーモジュールの前面にあるユニバーサルコネクタポート (UCP) に 3 ケーブルドングルを接続します。
 - 3 ビデオモニターを 3 ケーブルドングルのビデオコネクタに接続します。
 - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面の USB 接続のいずれかに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。
 - 5 CD/DVD ドライブをサーバーの前面のほかの USB ドライバに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。

次の手順 [24 ページの「BIOS の設定」](#)

▼ リモートインストールのセットアップ

リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。リモートインストールとして推奨される手順は、Oracle System Assistant の補助付き OS インストールタスクを使用する手順です。この手順を使用して、リモートの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはリモートの手動 (補助なし) インストールをセットアップします。

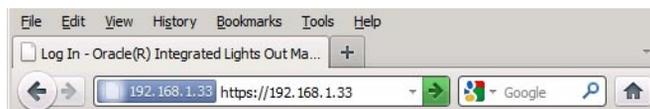
注- CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

始める前に 次の要件が満たされている必要があります：

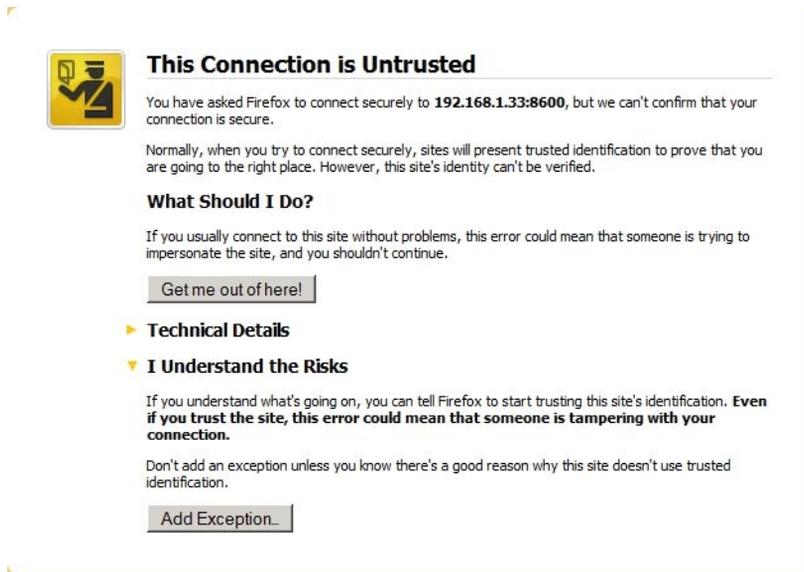
- 『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』で説明した手順に従って、サーバーのインストールを完了させておく必要があります。
- Oracle ILOM リモートコントロールシステムが、Solaris、Linux、または Windows 上で実行されている必要があります。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークに Oracle ILOM リモートコントロールシステムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 をインストールする必要があります。
- Oracle ILOM リモートコンソールシステムが Solaris を実行している場合は、Oracle ILOM リモートコンソールが CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- Oracle ILOM リモートコンソールシステムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer セキュリティ強化を無効にします。
- サーバースerviceプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従ってセットアップ済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP IP アドレスが必要です。
- サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバー Web アクセスが必要です。

注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

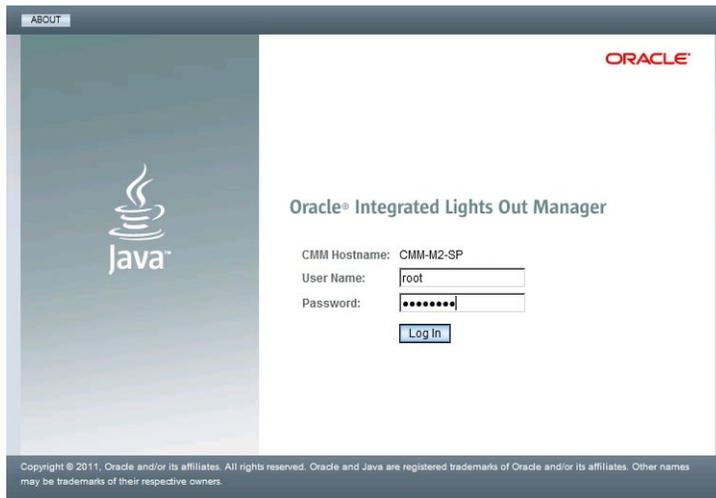
- 1 **Oracle ILOM** にアクセスするには、サービスプロセッサの IP アドレスをリモートコンソールシステム上のブラウザに入力します。



「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。
- 3 「Add Exception」をクリックします。
Oracle ILOM ログイン画面が表示されます。



- 4 ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。

Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

System Information

Summary

View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

General Information	
Model	-
Serial Number	-
System Type	-
System Identifier	-
System Firmware Version	-
Primary Operating System	-
Host Primary MAC Address	-
Blade Slot	-
ILOM Address	-
ILOM MAC Address	-

Actions	
Power State	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="button" value="Turn Off"/>
Locator Indicator	<input checked="" type="checkbox"/> OFF <input type="button" value="Turn On"/>
Oracle System Assistant Version:	<input type="button" value="Launch"/>
System Firmware Update	<input type="button" value="Update"/>
Remote Console	<input type="button" value="Launch"/>

Status

Overall Status: ✖ Service Required Total Problem Count: 2

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 96 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 24 / 24
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 403 watts Actual Power Consumption: 69 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Inlet Air Temperature: 22 °C Exhaust Air Temperature: 29 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12

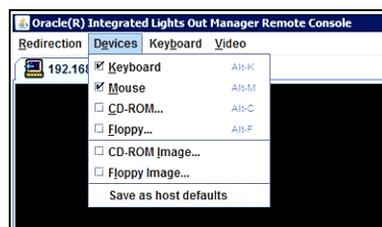
5 「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



6 「Open」をクリックします。

「Oracle ILOM Remote Console」画面が表示されます。



7 「Devices」メニューから、選択した配布方法に従って1つのCDアイテムを選択します。

- **CD-ROM リモート。** Oracle ILOM リモートコントロールシステムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。

- **CD-ROM** イメージ。Oracle ILOM リモートコンソールシステム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

次の手順 24 ページの「[BIOS の設定](#)」

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認する必要があります。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています:

- 24 ページの「[BIOS の最適なデフォルト設定のロード](#)」
- 25 ページの「[BIOS モードの設定](#)」

▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード



注意- この手順では、BIOS の設定をデフォルト値に戻し、これまでのカスタマイズ内容をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値をロードする前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

- 始める前に
- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
 - サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は次を参照してください
- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
 - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して **BIOS 設定ユーティリティー** にアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
 - 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、**F9** を押します。
 - 4 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティー** を終了するには、**F10** を押します。

次の手順 25 ページの「BIOS モードの設定」

▼ BIOS モードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしていますが、デフォルト設定は Legacy です。オペレーティングシステムによっては、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものもあれば、レガシー BIOS のみをサポートしているものもあります。これらは、OS をインストールする前に BIOS モードを設定するためのオプションです:

- OS がレガシー BIOS だけをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。
- OS がレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。

- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 BIOS 設定ユーティリティーで、左右の矢印キーを使用して「Boot」画面に移動します。
「Boot Menu」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「Legacy BIOS」を選択します。
- 6 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** を押します。

次の手順 27 ページの「Windows OS のインストール」

Windows OS のインストール

このセクションでは、Windows OS のインストールプロセスについて説明します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	説明	リンク
1	「OSのインストール準備」タスク表の手順をあらかじめ実行しておく必要があります。	19 ページの「OSのインストールの準備」
2	選択した方法で Windows をインストールします。	<ul style="list-style-type: none">■ 27 ページの「Windows をインストールする(Oracle System Assistant)」■ 30 ページの「Windows Server 2008 R2 を手でインストールする」■ 34 ページの「Windows Server 2008 をインストールする (PXE)」
3	サーバーシステムツール、ドライバ、追加ソフトウェアをアップデートします。	35 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」。

▼ Windows をインストールする(Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant アプリケーションの OS のインストールタスクは、サポートされている OS を Sun Blade X3-2B. にインストールするためのもっとも簡単な方法です。

Oracle System Assistant の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

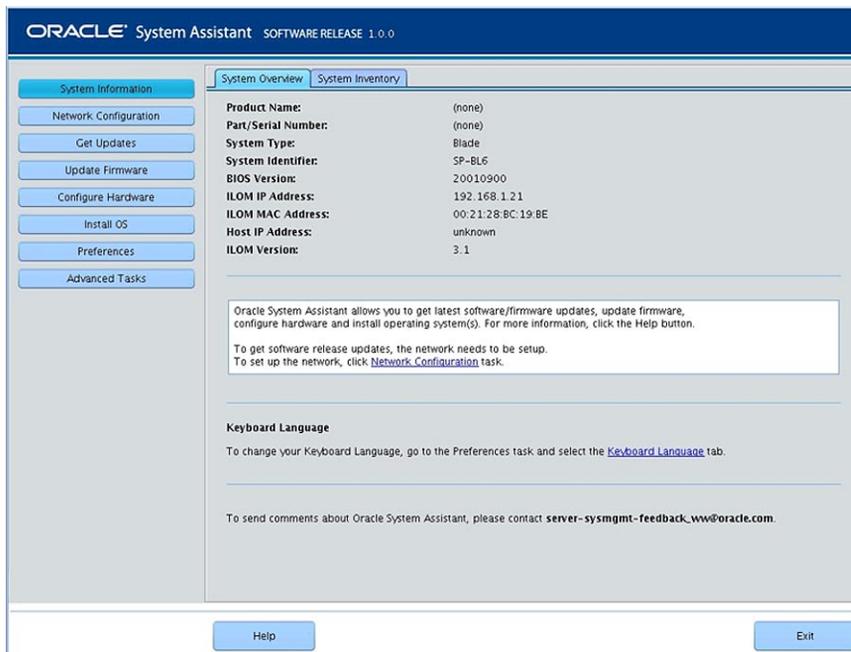
- 始める前に
- OS インストールタスク表を参照します。27 ページの「Windows OS のインストール」を参照してください。
 - LSI Logic 統合 RAID コントローラの設定ユーティリティを使用して、ブートドライブを RAID 1 (ミラーリング) 構成にするには、Ctrl+H (またはサーバー POST シーケンス中の場合は、コマンド行で Ctrl+C) を押します。Windows オペ

レーティングシステムをインストールする前にブートディスクを RAID 構成にする必要があります。詳細は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 設置ガイド](#)』を参照してください。

- Windows OS インストール用配布メディアを取得します。
 - ローカルインストールの場合は、Microsoft Windows インストールメディアを接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにいつでも挿入できるように準備しておきます。
 - リモートインストールの場合:
 - Microsoft Windows インストールメディアをシステムの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。「Device」メニューで「CD-ROM」が選択されていることを確認します。
 - Windows イメージを使用する場合は、ISO イメージが入手可能であることを確認します。「Device」メニューで「CD-ROM Image」が選択されていることを確認します。
- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
 - 2 サーバーをブートし、モニターまたはリモートコンソール画面を注視して、**F9** キーを押して **Oracle System Assistant** を起動するように求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)  
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)  
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)  
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- 3 プロンプトが表示されたら、**F9** キーを押します。
Oracle System Assistant System の「Overview」メイン画面が表示されます。



- 4 **Oracle System Assistant** をアップデートするには、「**Get Updates**」をクリックします。
これにより、OS のインストールを開始する前に、Oracle System Assistant によって最新のファームウェア、ツール、ドライバが用意されます。

注 - Oracle System Assistant を更新するには Web アクセス環境が必要です。

- 5 「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。
これにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよびドライバが確実に最新のものになります。
- 6 「**Install OS**」ボタンをクリックします。
「Install OS」画面が表示されます。
- 7 インストールしようとしている OS のバージョンがサポートされていることを確認するために、「**View supported operating systems**」ウィンドウに表示されたリストを確認します。

- 8 「**Select your install media location**」セクションで、OS 配布メディアの場所を指定します。
CD/DVD または仮想ドライブを選択できます。
- 9 プロンプトに従ってインストールを完了します。
インストールプロセスでは、サーバーが1回以上リブートします。

参照 35 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

▼ Windows Server 2008 R2 を手動でインストールする

このセクションでは、Oracle System Assistant を使用せずに、OS をインストールする方法について説明します。OS はローカルまたはリモートのどちらかの方法でインストールできます。



注意-データ損失。OS のインストールを行うとブートディスクがフォーマットされるため、ディスク上の既存のデータは、インストール済みの OS も含め、すべて消去されます。

始める前に

- 選択した OS インストール方法(ローカルまたはリモート)に合わせてサーバーを設定します。19 ページの「ローカルインストールの設定」または20 ページの「リモートインストールのセットアップ」を参照してください。
 - 必要に応じて、サーバーのハードドライブ上にボリュームを作成し、ブートデバイスを設定します。『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』を参照してください。
 - Windows OS インストール用配布メディアを取得します。
 - ローカルインストールの場合: プロンプトが表示されたら、Microsoft Windows Server 2008 R2 インストールメディアを接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - リモートインストールの場合: Windows Server インストールメディアを Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。「Device」メニューで「CD-ROM」が選択されていることを確認してください。
 - Windows イメージを使用する場合: Windows Server インストール用 ISO イメージがリモートシステムから入手可能であることを確認します。「Device」メニューで「CD-ROM Image」が選択されていることを確認してください。
- 1 サーバーの電源を入れ直します。

Windows リモートまたは Windows イメージを使用する場合は、ILOM 経由でこれを実行できます。

BIOS POST プロセスが開始されます。

- 2 画面を注視して、**BIOS**メニューが表示されるまで待ちます。

注-BIOS POSTメッセージ(BIOSメニューオプションリストも含む)はすぐに消えてしまいます。メッセージを見逃してしまった場合は、サーバーの電源を入れ直し、ブート中にF8キーを押したままにして、BBSポップアップメニューが表示されるのを待ちます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- 3 BIOSメニューオプションリストが表示されたら、**F8**キーを押して**BBS**ポップアップメニューを開きます。

BIOS POSTプロセスが完了すると、BBSポップアップメニューが表示されます。BBSポップアップメニューでブートデバイスを選択できます。

BBSポップアップメニュー画面の例を次に示します:

```
Please select boot device:
-----
RAID:PCIE1:(Bus 40 Dev 00)PCI RAID Adapter
PXE:IBA GE Slot 2000 v1372
PXE:IBA GE Slot 2001 v1372
USB:USBIN:ORACLE SSM PMAP
USB:USBFRONT0:SONY DVD RW DRU-830A SS22
Enter Setup
-----
↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- 4 インストール方法として**Windows**ローカルを選択した場合は、接続された**DVD**ドライブに**Windows**メディア**DVD**を挿入します。

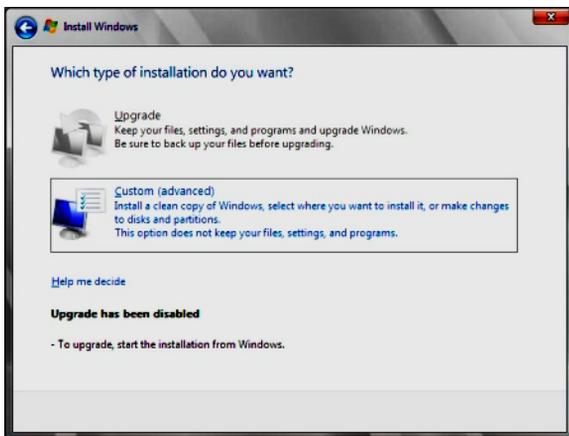
5 次のいずれかを実行します:

- Windows ローカルを使用する場合は、「Boot Device」メニューから「CD/DVD」を選択して Enter キーを押します。
- Windows リモートまたは Windows イメージを使用する場合は、「Boot Device」メニューから仮想 CD/DVD を選択して Enter キーを押します。

「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows インストールウィザードが起動します。

6 インストールウィザードの手順を進めて、「インストールの種類」が表示されたら「カスタム(詳細)」をクリックします。



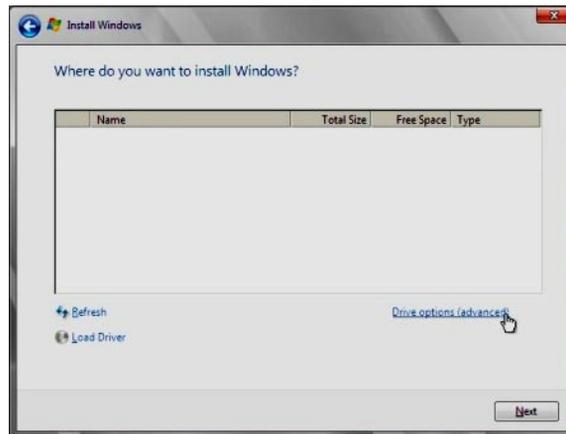
7 「Windows のインストール場所を選択してください」画面で、次を実行します:

- Windows Server 2008 SP2 用の大容量記憶装置ドライバを追加する場合は、「ドライバの読み込み」をクリックし、大容量記憶装置ドライバの格納場所 (CD/DVD または USB フラッシュドライブ) に移動します。ドライバ情報ファイル (.inf) を選択します。

注 - Windows Server 2008 SP2 の場合、接続された CD/DVD または Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを介して、ドライバにアクセスできなければなりません。ドライバにアクセスできない場合、次の図に示すように、ディスクが表示されなくなります。

- Windows のデフォルトのパーティション設定を選択する場合は、「次へ」をクリックします。手順 9 に進んでください。

- Windows のデフォルトのパーティション設定をオーバーライドする場合は、「ドライブオプション(詳細)」をクリックし、次の手順に進みます。



注意-既存のパーティションをフォーマットしたりパーティションを作成し直したりすると、そのパーティションにあるすべてのデータが消去されます。

- 8 詳細ドライブオプション画面で、次の操作を実行します:
 - a. 「削除」をクリックして既存のパーティションを削除します。
 - b. 「新規作成」をクリックして新しいパーティションを作成します。
 - c. 必要に応じてサイズ設定を変更し、「適用」をクリックします。

- d. 「次へ」をクリックします。



Windows のインストールが開始されます。インストールプロセス中、サーバーは複数回リブートします。

インストールプロセスが完了すると、Windows が起動し、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。

- 9 「OK」をクリックして、管理者パスワードを割り当てます。

注-パスワードは8文字で、数字が1文字、大文字が1文字含まれていなければなりません。詳細は、アカウント作成ページのアクセシビリティのリンクをクリックしてください。

管理者アカウントにパスワードを割り当てると、Windows Server 2008 R2 デスクトップが表示されます。

参照 35 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」。

▼ Windows Server 2008 をインストールする (PXE)

次の手順は、Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2 に適用されます。

注-電源投入メッセージとプロンプトは高速で表示されるため、すぐに画面から消えてしまうことがあります。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 1 次のいずれかを使用して、サーバーをリセットするか電源を投入します:

- Oracle ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control」タブで、「Reset」を選択します。
 - ローカルサーバーで、フロントパネルにある電源ボタンを約1秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- 2 **F8**キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」画面が表示されます。
 - 3 「Please Select Boot Device」画面で、適切なPXEインストールブートデバイスを選択し、**Enter**キーを押します。

注 - PXEインストールブートデバイスは、ネットワークインストールサーバーとの通信に使用される物理ネットワークポートです。

「Boot Agent」画面が表示されます。

- 4 「Boot Agent」画面で、**F12**キーを押してネットワークサービスをブートします。
- 5 通常のWindows Server 2008 SP2またはWindows Server 2008 R2 WDSネットワークインストールを続行します。
詳細は、MicrosoftのWindows展開サービスに関する製品ドキュメントを参照してください。
- 6 インストールが完了したら、必要に応じてインストール後のタスクを実行します。

参照 [35 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新

次の各手順では、InstallPackアプリケーションを使用してサーバーシステムツールのインストールおよびシステムドライバのアップデートの方法を説明します (InstallPackアプリケーションは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードしたサーバー固有のソフトウェアパッケージと一緒に入手可能です):

- [36 ページの「サーバーシステムツールのインストール」](#)
- [37 ページの「システムドライバをアップデートする」](#)

▼ サーバーシステムツールのインストール

1 次のいずれかを実行します:

■ システムに **Oracle System Assistant** がない場合:

- a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。

詳細は、[41 ページ](#)の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

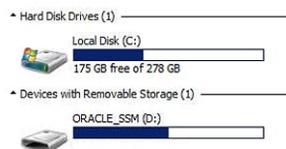
- b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。各種サーバーシステムツールは次の各ディレクトリに格納されます—ここで *version* はインストールされた Windows OS のバージョンです:

- Windows Install Pack MSM: `Windows/version/Tools/LSI-MSM`
- NIC Teaming for Windows: `Windows/version/Tools/Intel-NIC-PROSet`
- Oracle Hardware Management Pack: `Windows/version/Tools/Hardware-Management-Pack`

■ システムに **Oracle System Assistant** がある場合:

- a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: `ORACLE_SSM`



- b. **ORACLE_SSM USB** ドライブをダブルクリックします。

サーバーシステムツールは、次のディレクトリのいずれかに格納されます:

ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。

- Windows Install Pack MSM: `Windows/version/Tools/LSI-MSM`
- NIC Teaming for Windows: `Windows/version/Tools/Intel-NIC-PROSet`
- Oracle Hardware Management Pack: `Windows/version/Tools/Hardware-Management-Pack`

- 2 サーバーシステムツールをインストールするには:
 - Oracle Hardware Management Pack については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>にあるインストールドキュメントを参照してください。
 - Windows InstallPack of MSM および NIC Teaming for Windows については、次の手順に進んでください。
- 3 **installer** フォルダに移動します:
drive:\ORACLE_SSM\Windows\version\installer。
ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。
- 4 **InstallPack.hta** ファイルをダブルクリックします。
InstallPack アプリケーションが表示されます。
- 5 サーバーシステムツールをインストールするには、「カスタム」が選択されていることを確認して、「次へ」をクリックします。
「カスタム」設定で、インストールするツールを選択できます。
- 6 追加ソフトウェアのオプションが選択されていることを確認します。
プラットフォーム固有のドライバをインストールするためのオプションが選択されていないことを確認します。

注-プラットフォーム固有のドライバオプションは、使用しているサーバーのドライバをインストールするためのオプションです。これらのドライバはOSのインストールプロセス中にインストールされます。

- 7 「次へ」をクリックして、インストールするツールを選択します。
- 8 「次へ」をクリックして、**Install Pack** アプリケーションの手順を進め、ツールのインストールプロセスを終了します。

▼ システムドライバをアップデートする

次の各手順では、Windows InstallPack アプリケーションを使用してサーバーシステムドライバをアップデートする方法を説明します (Windows InstallPack アプリケーションは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードしたサーバー固有のソフトウェアパッケージと一緒に入手可能です)。

1 次のいずれかを実行します:

■ システムに **Oracle System Assistant** がない場合:

- a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。

詳細は、[41 ページ](#)の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

- b. ダウンロードしたツールおよびドライバのパッケージをサーバー上に解凍します。

サーバーシステムドライバは、次のディレクトリに格納されます:

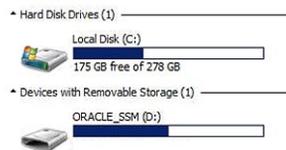
Windows*version*\Drivers

ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。

■ システムに **Oracle System Assistant** がある場合:

- a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: ORACLE_SSM



- b. **ORACLE_SSM USB** ドライブをダブルクリックします。

2 **installer** フォルダに移動します:

drive:\ORACLE_SSM\Windows*version*\installer。

ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。

3 **InstallPack.hta** ファイルをダブルクリックします。

InstallPack アプリケーションが表示されます。

4 アプリケーションの処理を進め、プラットフォーム固有のドライバをインストールするためのオプションを選択します。

追加ソフトウェアをインストールするためのオプションが選択されていないことを確認します。

注- 追加ソフトウェアオプションを使用して、サーバーシステムツールをインストールできます。

- 5 「次へ」をクリックして、**Install Pack** アプリケーションの手順を進め、ツールのインストールプロセスを終了します。

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
ファームウェアとソフトウェアのアップデートについて説明します。	41 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアを入手するためのオプションについて学習します。	42 ページの「ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション」
入手可能なファームウェアとソフトウェアのパッケージを示します。	42 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストによって、ファームウェアとソフトウェアのパッケージを入手します。	44 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	48 ページの「アップデートのインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。アップデートはソフトウェアリリースとして公開されます。ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できるすべてのファームウェア、ハードウェアドライバ、およびユーティリティを含む、ダウンロード(パッチ)のセットです。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれている Read Me ドキュメントに、前回のソフトウェアリリースから変更された点と変更されていない点が説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になりしだい、更新してください。ソフトウェアリリースには、多くの場合はバグの修正が含まれていて、更新によってサーバーモジュールソフトウェアは、最新のシャーシファームウェアおよびその他のシャーシコンポーネントのファームウェアやソフトウェアとの互換性を確保できます。

ダウンロードパッケージ内の Read Me ファイルおよび『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』には、ダウンロードパッケージ内の更新済みのファイル、および現在のリリースで修正されているバグに関する情報が記載されています。さらに、プロダクトノートには、最新のシャーシのファームウェアでサポートされているサーバーモジュールソフトウェアのバージョンに関する情報も記載されています。

ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション

次のオプションのいずれかを使用して、サーバーの最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します:

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされる Oracle サーバー用の新しいオプションであり、サーバーのファームウェアおよびソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできるように支援します。

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle ILOM Web インタフェースからの Oracle System Assistant へのアクセス」を参照してください。

- **My Oracle Support** – システムのすべてのファームウェアとソフトウェアは、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) から入手できます。

My Oracle Support で入手できるものの詳細は、42 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法は、44 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手できるダウンロード (パッチ) が含まれている DVD をリクエストできます。

詳細は、46 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品種別はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは本当のソフトウェア製品のリリースではなく、サーバー用のアップデートのリリースです。これらのアップデートはソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数

のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

My Oracle Support には、次の表に示したとおりの、このサーバーファミリ向けのダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X3-2B SWversion – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
X3-2B SWversion – OS Pack	OS パックは、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。各 OS パックには、該当のバージョンの OS 用のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージが含まれていません。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SWversion – All packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックに SunVTS または Oracle System Assistant のイメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SWversion – Diagnostics	SunVTS 診断イメージ。	SunVTS 診断イメージが必要なとき。
X3-2B SWversion – Oracle System Assistant Updater	Oracle System Assistant アップデータおよび ISO アップデートイメージ。	Oracle System Assistant を手動で復旧またはアップデートする必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、Read Me と、ファームウェアまたはソフトウェアのファイルを含むサブディレクトリのセットが含まれています。Read Me ファイルに

は、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントと、修正済みのバグの詳細が記載されています。これらのダウンロードのディレクトリ構造の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

ファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする方法について説明します。

注 - Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用することもできます。詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

アップデートされたファームウェアとソフトウェアには、ほかにも2つの入手方法があります。

- 44 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」
- 45 ページの「物理メディアをリクエストする」

▼ My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー (拡張検索)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Blade X3-2B) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
入手可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード(パッチ)のセットで構成されます。
入手可能なダウンロードの説明については、[42 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします(複数のパッチを選択できます)。
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 アップデートをダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
自動的にダウンロードが開始されます。

物理メディアをリクエストする

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) によって最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表で、物理メディアのリクエストを行うための大まかなタスクについて説明し、詳細情報のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストを行うために必要な情報を収集します。	45 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインで、または Oracle サポートに電話することで、物理メディアをリクエストします。	46 ページの「物理メディアのリクエスト(オンライン)」 47 ページの「物理メディアのリクエスト(電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します:

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必要なパッチを把握します。最新のソフトウェアリリースと、リクエストするダウンロードパッケージ(パッチ)の名前がわかっていると、より簡単にリクエストを行うことができます。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 44 ページの「[My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあとに、ダウンロード手順を続けない場合は、「パッチ検索結果」ページから移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 42 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」にある情報を使って、目的のパッケージを判断してから、最新のソフトウェアリリース用のこれらのパッケージをリクエストしてください。
- 送付先情報を用意します。リクエストのためには、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所を提供する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、45 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載されている情報を収集します。

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスして、サインインします。
- 2 ページの右上隅にある「問合せ先」リンクをクリックします。
- 3 「リクエストの説明」セクションで、次を入力します:
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンリストから、次を選択します:
物理メディアのリクエスト(レガシー Oracle 製品、Primavera、BEA、Sun 製品)
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次を入力します:
Sun Blade Sun Blade X3-2B の最新ソフトウェアリリースの **PMR**
- 4 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します:

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか?	はい
どの製品ラインに関するメディアのリクエストですか?	Sun 製品

質問	回答
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	いいえ
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい
パッチを CD や DVD でリクエストする場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	該当するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力します。
リクエストする製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Blade X3-2B バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号。
リクエストするメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
この送付に言語は必要ですか？	いいえ

- 5 送付先の担当者、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所の情報を入力します。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「関連ファイル」の下に **Knowledge Article 1361144.1** と入力します
- 8 「送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、[45 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」](#)に記載されている情報を収集します。

- 1 **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある適切な番号を使用して、Oracle サポートに電話します:
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Blade X3-2B** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を Oracle サポートに伝えます。
 - **My Oracle Support** から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。

- ソフトウェアリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Blade X3-2B**の最新のソフトウェアリリースをリクエストしてください。

アップデートのインストール

以降のトピックでは、ファームウェアとソフトウェアのアップデートのインストールに関する情報を提供します:

- [48 ページの「ファームウェアをインストールする」](#)
- [49 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアをインストールする

更新されたファームウェアは、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant では、Oracle の最新のファームウェアをダウンロードしてインストールできます。

詳細は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』の「サーバー構成のための [Oracle System Assistant の使用](#)」を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内のファームウェアを更新できます。

詳細については、次にアクセスしてください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースおよび Oracle ILOM CLI を使用して更新できる唯一のファームウェアです。

詳細については、次にアクセスしてください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

更新されたハードウェアドライバとオペレーティングシステム (OS) 関連のツール (Oracle Hardware Management Pack など) は、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** - 詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** - 詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle System Assistant によるサーバーの設定」を参照してください。
- JumpStart、Kickstart、またはサードパーティー製ツールなどのその他の配備メカニズム。

詳細は、使用している OS のドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS

最適なデフォルト値の読み込み

Windows, 24–25

ブートモード、設定 (Windows), 25

E

Enterprise Manager, 12

O

Oracle ILOM

リモートコンソールアプリケーション

Windows, 20–24

Oracle System Assistant

OS インストール (Windows), 27–30

Windows, 15

OS のインストール, Windows, 11–17

P

Preboot Execution Environment (PXE), 34–35

U

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS

ブートモード

Windows, 25

W

Windows, Windows 展開サービス (WDS), 14

Windows OS のインストール, 方法, 13

あ

アップデート, 最新情報 (Windows), 12

い

インストール

ツールとドライバ

Windows, 35

リモート設定 (Windows), 20–24

ローカル設定 (Windows), 19–20

お

オペレーティングシステム

サポートされているバージョン

Windows, 12

さ

最適なデフォルト値

読み込み

Windows, 24–25

サポートされている

オペレーティングシステム

Windows, 12

し

手動 OS インストール, Windows, 14

手動インストール, Windows, 30-34

せ

設定

BIOS ブートモード

Windows, 25

そ

ソフトウェアとハードウェア

情報

Windows, 12

つ

ツールとドライバ

インストール

Windows, 35

と

ドキュメント

最新の取得

Windows, 12

は

ハードウェアとソフトウェア

情報

Windows, 12

ふ

ファームウェア

アップデート情報

Windows, 12

複数サーバー OS インストールオプション, 12

プロダクトノートドキュメント, Windows, 12

ほ

補助付き OS インストール

Windows, 14, 27-30

り

リモートインストール, 設定 (Windows), 20-24

れ

レガシー BIOS

ブートモード

Windows, 25

ろ

ローカルインストール, 設定 (Windows), 19-20